PICK UP

THE PERSON

㈱ K&K
代表取締役

國崎勝

KEY WORD

正道

— syoudou —

「どんな仕事でも絶対に断らない」。
國崎社長はその信念を曲げることなく貫徹し、人々からの信頼を紡いできた。
「お人好し」と言われることもあれば、貧乏くじを引いたことも度々ある。
しかし社長は、自分の信念を曲げることはなかった。
それは両親が早逝したことから、「正しく生きること」を自分に課してきたからだ。
「『やはり親がいない人間は駄目だ』とは絶対に言われたくなかったのです」――
そして手掛けた『K＆K』は、一度も営業をすることなく今まで続いているという。
その顧客からの信頼、栄誉は、誠心誠意正しい道を歩んできたことの証なのだ。

**「人から裏切られても私は人を裏切らない。
人に恥じない道をとの想いで歩んできた」**

© 2019 USP-Management Co., Ltd.

代表取締役

國崎 勝

福岡県生まれ。幼いころに父親を失い、次いで小学３年生の時に母親を亡くし、兄弟のもとで育てられた。中学卒業後は一度は高校に進学するも、「早く働きたい」との想いから関東に働きに出るように。自動車関係の仕事を経て地元に戻り、ガス配管や設備の仕事に携わる。その後 1984 年に独立し、現在に至る。

「絶対に人の期待を裏切らない」――その想いで信頼を紡いできたガス配管・設備工事会社

ただ誠心誠意、懸命に仕事を納めてお客様に応えていく――『K&K』は、國崎社長たちのそんな実直な働きぶりを軸に信頼を紡いできたガス配管・設備工事会社だ。社長が独立してから35年間、一度も営業をすることなく顧客から受注を受けてきたことからも、同社が顧客からの信頼を得てきたことが窺える。本日はタレントのダンカン氏が同社を訪問し、社長の歩んできた道程、仕事や家族への想いを伺った。

――國崎社長はこれまで、どのような道程を歩んでこられたのでしょう。

物心が付かないうちに父を亡くし、小学校3年生の時に母も他界したため、年の離れた兄弟たちのもとで育ちました。ですから兄弟が親代わりのようなものなのですが、私自身も家事に積極的に参加し、可愛がられたというよりは兄弟皆で力を合わせて育った、という気持ちを持っています。

――小さなころから苦労されたようですね。進学はどうされたのですか。

一度は定時制の学校に入ったのですが、入学後すぐに「勉強よりも、一刻も早く働いたほうが良いな」という想いを抱くようになりました。私のような境遇の人間にとって、勉学に時間を掛けるだけのゆとりはなかったのです。それで地元・福岡を離れて関東に移り、車の工場の工員や輸出用の自動車を運ぶ仕事を経て、トラックドライバーになりました。私は子どものころから車が大好きで、特に観光バスやトラックの運転手に憧れていましたから、やり甲斐を持って懸命に仕事に励みましたね。

――適職を見つけられたわけだ。ではずっとそのお仕事を順調に進めてこられて？

それがある時、交通事故を起こしてしまいまして……。免停となり、ドライバーの仕事ができなくなったのです。そのころはちょうど妻と結婚した直後でしたから、仕事をしないというわけにはいきません。それで地元に帰り、設備工事やガス配管の仕事をするようになったのです。青森出身の妻を、遠く九州まで連れてきてしまいました（苦笑）。

――せっかく良いお仕事を見つけたところに不運でしたね……。その後、独立したきっかけは何だったのでしょう。

勤め先のガス会社が他社に吸収されることになり、それを契機に一人で仕事をするようになったのです。と言ってもそのころの私はまだ一人前ではなく、独立当初は手探りの日々が続きました。図面を読む力もなく、夜中に現場に行って実物の配管を見て学んだり、お客様のところを訪れる直前に車の中で説明書を読み込み、お客様に必死で説明したり……。

――そうでしたか。でも言い換えれば、早い時期からちゃんと仕事があったわけだ。

そうなんです。私自身は仕事がなければ日雇いの仕事などをしてつないでいこう、という気持ちでいたのですが、会社勤めのころの私の仕事ぶりを見ていた方が「あなたに仕事をお願いしたい」と言って下さったんです。

――良い話だな。頑張っていると、見てくれる人がいるものですね。

もう、そういう方々とのつながりは財産だな、と思いますね。それで、仕事を下さる方のご厚意は絶対に断らず応えるという信念で仕事を引き受けてきました。他所で「そんな仕事は損だからしない」と断られるような仕事も絶対に引き受けようと。

――素晴らしい心がけですね。でも、それでは損になることもあったのでは？

それでも良いと思っていました。どんな仕事でも引き受け、真摯に応えていれば、その想いがいつか相手にも伝わり、「いつもあの人に貧乏くじを引かせてしまっているな。だから今度は良い仕事を」と言って下さる――そう考えていたのです。勿論そうそう上手くいくことばかりではないかもしれませんが、そうなっても相手を恨んだりはしません。たとえ裏切られても私は人を裏切らない。何故って、私は親がいないでしょう。そんな私が人の道に反することをしたら、人様から「やっぱり親がいない人間は……」と言われてしまう。それだけは絶対に駄目だと考えていたのです。

――ご両親を早く亡くされたのは悲しいことですが、社長はしっかりと受け止め、その生い立ちを意味あるものに変えてこられたのですね。

ありがとうございます。その思いを胸に生きるうち、色んな方々に恵まれ、ここまで頑張って仕事を続けてこられました。ちなみに今は従業員も5人になり、息子も一緒に仕事をしてくれています。私も67歳になりましたし、70歳までには代替わりしようと思っているんですよ。

――ほう、後継ぎがいるのは心強いですね。その後の社長の展望と言いますと？

仕事は続けていくつもりです。ただ、それと共にここまで一緒に頑張ってきてくれた妻への恩返しもしたいと思っています。人間、いつ死ぬか分かりませんから、豪華客船の旅をするなど、妻と一緒にゆっくり楽しい時間を過ごしていきたいですね。

CHECK POINT　「家族のためなら、私はいくらでも働ける」

▼インタビュー中、國崎社長は何度も奥様への感謝を口にしていた。文句一つ言うことなく、積極的に社長をサポートしていたという奥様。たとえば独立当初は非常に多忙で、車中で寝泊まりして家に帰れないことも多々あった。そんな時も奥様は着替えや食事を車に持ってきてくれたりしたそうだ。社長のお子さんが大きくなってからは経理の仕事もしていたという。社長自身、そんな苦労を知っていたため、ある時「もう仕事は良いから」と話したそうだ。

▼もっとも、そんな奥様が仕事から離れていた時期がある。それは、お子さんがまだ小さかったころのこと。社長自身親がいなかったため、小さいころは鍵っ子で寂しい思いをしていた。だから同じような想いは絶対にさせたくないと、奥様には家にいてもらっていたのだそうだ。「そうした家族のためなら、私はいくら働いても構わないんです」と社長。ここまでその想いを胸に、脇目もふらずに走り続けてきたのだろう。

▼そうした苦労と努力が実り、今は成長したご子息に代を譲るところまできた。そして今社長は、奥様やお孫さんと一緒に遊びに行く計画を立てている。「今、とても幸せなんです」。そう言って社長は穏やかな笑顔を見せてくれた。

ゲスト●ダンカン

『私は運のないほうなんですが、仕事運だけはあるんですよ』と笑って話して下さった國崎社長。けれどもそれは運ではなく、社長の人格の賜物だと私は思います。インタビューをしているだけでも伝わってくる社長の実直なお人柄。そして真摯な働きぶりが、30年以上にわたって周囲の人々を惹きつけてきたのでしょうね」

© 2019 USP-Management Co., Ltd.